

## 青森県における早期新生児期からの長期入院例の実態

千葉 力

(青森市民病院 小児科)

### 目 的

近年における新生児医療の進歩により、ハイリスク児の救命例が増加している。その結果、長期入院例が増加して、NICUが円滑に機能しなくなる恐れも出て来ている。それゆえ、その解決にむけての第一歩として、青森県における長期入院例の実態を調査した。

### 方 法

青森県内にある12の総合病院にアンケートを依頼して、100%の回収率を得た。

### 対 象

昭和61年1月から12月までの1年間に、日令0～6日の早期新生児期に入院して、継続して日令90日以上長期入院例を対象とした。同時に各施設での死亡数も集計した。

### 結 果

表1、表2に青森県における昭和61年の衛生統計を示した。超未熟児の割合も全国平均と差が

表1 青森県の衛生統計（昭和61年）

	数	率（対1,000）
出生	18,353	12.1
新生児死亡	60	3.3
乳児死亡	103	5.6

表2 出生体重別の累積出生数と割合（昭和61年）

出生体重	累積出生数	割合（%）
超未熟児 { < 500 g	2	0.136
< 1000 g	25	
極小未熟児 < 1500 g	80	0.436
低出生体重児 < 2500 g	915	4.99

表3 青森県内における早期新生児期からの  
長期入院例数（日令90日以上）と  
死亡数（NICUおよび病的新生児室で）  
〈病院別、昭和61年〉

病 院	新生児入院数	長期入院数	死 亡 数
A	179	6	14
B	251	3	12
C	110	4	2
D	141	3	4
E	26	3	6
F	132	1	3
G	65	1	3
H	31	1	5
I	112	0	1
J	66	0	1
K	8	0	2
L	2	0	1
計	1123	22	54
割 合	出生数の 6.12 %	入院数の 1.96 %	入院数の 4.80 %

表4 長期入院（日令90日以上）の主な理由〈出生体重別〉

	計 22	1000 g 未満 9例40.9%	1500 g 未満 7例31.8%	1500 g 以上 6例27.3%
RDS、BPD	12	8 88.9%	4 57.1%	
無呼吸	1	1 11.1%		
仮死、痙攣、ICH	2		2 28.6%	
仮死、MAS	1			1 16.7%
CHD、CHF	2		1 14.3%	1 16.7%
栄養障害	1			1 16.7%
染色体異常	3			3 50.0%

表5 長期入院例の在胎週数別例数

在 胎 週 数	例 数	割 合 ( % )	
24 ~ 25	2	9.1 %	} 54.5%
26 ~ 27	5	22.7	
28 ~ 29	5	22.7	
30 ~ 31	4	18.2	} 45.4%
32 ~ 33	0	0	
34 ~ 35	0	0	
36 ~ 37	1	4.5	
38 ~ 39	4	18.2	
40 ~ 41	1	4.5	
	22		99.9%

表6 長期入院例の男女別例数

性	例数	割合(%)
男	15	68.2%
女	7	31.8%
計	22	100.0%

表7 A～Eの5病院（昭和60年の年間人工換気施行4例以上）  
における超未熟児の入院期間と死亡数

病院	超未熟児数	死 亡 (日令90日未満)	生 存 (日令90日以上)	
			(日令90日未満入院)	(日令90日以上入院)
A	5	3	1 <80>	1 <94>
B	7	4	1 <82※>	2 <92, 212※>
C	3	2		1 <226※>
D	1			1 <155>
E	2			2 <107, 169>
計	18	9	2	7

内：退院時日令  
※：小児科病棟へ移床

なかった。表3には各病院の集計を示した。このうちA～Eの5病院は昭和60年の年間人工換気施行4例以上であった。表4に出生体重別の長期入院の主な理由を示した。1000g未満児に長期入院例が多かった。表5は在胎週数では30週未満が長期入院例の54.5%を占めた。表6は長期入院例の男女比は約2：1であった。表7はA～Eの5病院における超未熟児の入院期間と死亡数を示した。青森県における500g ≤ BW < 1000g児、23例中18例を占めていた。

## 結 語

早期新生児期からの長期入院例には、超未熟児が40.9%（9/22）と多かった。超未熟児の50%（9/18）は日令90日以上生存し、生存例の22.2%（2/9）が日令90日未満で退院または移床した。また、小児科病棟へ移床した例が33.3%（3/9）に認められた。超未熟児生存例の77.8%（7/9）は日令90日以上入院を要した。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 結語

早期新生児期からの長期入院例には、超未熟児が 40.9%(9/22)と多かった。超未熟児の 50%(9/18)は日令 90 日以上生存し、生存例の 22.2%(2/9)が日令 90 日未満で退院または移床した。また、小児科病棟へ移床した例が 33.3%(3/9)に認められた。超未熟児生存例の 77.8%(7/9)は日令 90 日以上入院を要した。